

# The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、  
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、  
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

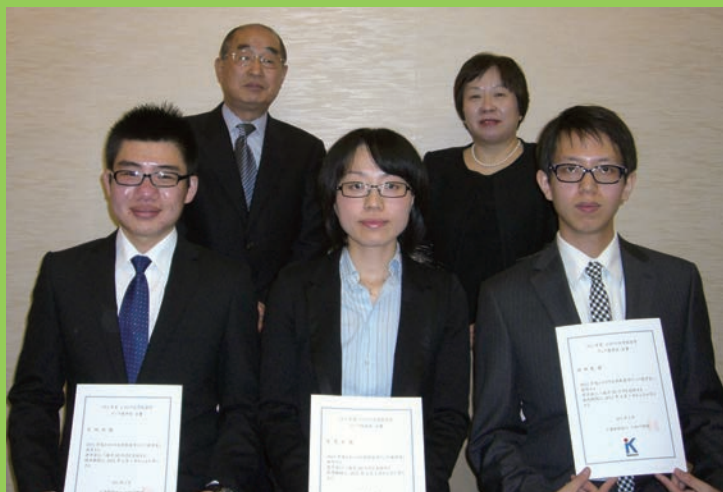
 公益財団法人  
**かめのり財団**  
Kamenori The Kamenori Foundation

2011年7月 No. 7

## 今号の内容

- ◇第5回かめのり賞  
募集のご案内
- ◇かめのり大学院留学 アジア奨学生  
新奨学生決定
- ◇かめのりコミュニティの仲間からのお便り
- ◇高校生交換留学プログラム  
アジアへ出発
- ◇事務局からのご挨拶  
5周年を迎えて

大学院留学 アジア奨学生 授与式



## 第5回かめのり賞

### 募集のご案内

かめのり賞は、交換留学、文化・スポーツの青少年交流、語学教育など日本とアジア・オセアニアの相互理解の増進に草の根で貢献している方々の活動を顕彰し、支援します。表彰者には、本賞の記念の楯と副賞として活動奨励金を贈呈します。

対象は、5年以上の活動歴を持ち、次のような活動に携わるNPO（非営利団体）、ボランティアグループ、個人となります。

- ① 国際交流・協力を係わる活動
  - ② 多文化共生に係わる活動
  - ③ 国際貢献に携わる人材を育成する活動
- また、①～③のうち、特に、本年度は3月の大震災の被災地域やその影響を受けた地域の方々およびそれらの地域を応援する活動を積極的に支援します。詳しい募集要項は、ホームページをご覧ください。応募締切は、9月9日です。

これまでの表彰者および活動内容もホームページで公開しています。

多くの方からのご応募をお待ちしています。



第5回かめのり賞募集要項 ——— <http://www.kamenori.jp/kamenorishou.html>  
Tel : 03-3234-1694(9:30-17:30) E-mail : info@kamenori.jp

# かめのりコミュニティ

## かめのり大学院留学 アジア奨学生

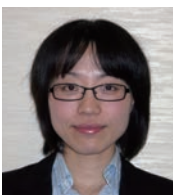
### 新奨学生決定

2011年度は、新奨学生制度のもと、3名の新しい奨学生を迎え、4月初旬に授与式を行いました。懇親会では、3月に奨学金受給期間を終えた修了生も交え、今後の研究への抱負や日本での生活について和やかな雰囲気の中で語り合いました。夏の研修交流会やかめのりフォーラムを通じて、研究の進捗状況や異文化での生活についてそれぞれの体験を話し合う機会を設け、奨学生との交流を深めていきます。新奨学生と2名の修了生をメッセージとともに紹介します。



徐 寧教 (韓国)  
Suh, Young Kyo  
東京大学大学院  
経済学研究科 (博士後期)

私は「ものづくり企業のグローバル化」というテーマで研究をしています。グローバル化が叫ばれるようになり、世界各国は日常的に密接に関係しなければならなくなっています。企業はもはや自国内だけの競争だけではなく、国境を超えて世界各国の企業と競争することを強いられています。そのとき、ものづくり企業はどのように対処していくのか。具体的には、海外で生産を行うとき、どのように海外の工場を建て、どのようにそれをマネジメントしていくのかを日本と韓国のものづくり企業を中心に勉強しています。将来は、アジアだけではなく全世界のものづくり企業を訪問・調査・研究したいと思います。そして、企業の人たちの役に立つような自分だけの理論を完成させたいです。



金 旻貞 (韓国)  
Kim, Min Jung  
京都大学大学院  
人間・環境学研究科 (博士後期)

私の専攻分野は文化財の保存科学で、特にその中でも「彩色の劣化の要因究明及び保存に関する研究」に取り組んでいます。歴史時代以前から人間は、彩色を用いてきました。

しかし、施された彩色の多くは、現在経年劣化を生じ、当初とは異なった姿になっています。彩色に含まれるできるだけ多くの情報を把握するため、領域ごとに特徴の異なる電磁波を利用した調査を非破壊で行っています。これらの情報を後世に伝えることを目的として、研究していきたいと思っています。将来的には「彩色の材料および技法の時代・地域毎の変遷から東アジア独自の彩色のルーツを探求する」ことを目標に、私しかできないことを目指してがんばります。



史 明洲 (中国)  
Shi, Mingzhou  
一橋大学大学院  
法学研究科 (博士前期)

私は中国・河北省の出身で、民事訴訟を専攻しています。民事訴訟といえば、堅苦しいイメージが浮かぶ方は多いでしょう。しかし、21世紀という新しい時代に入り、訴訟制度はもはや国家の権力行使ではなく、「公平・中立・簡素」な公的サービスの一環になりました。今は中国が社会転換期を迎えています。転換というものは矛盾と衝突を抱きながらも、新しい制度を実現させる絶好のチャンスとも言え、その第一歩は社会的な良知を持つ学者による青写真作りだと思います。つまり堅苦しい制度をいかに国民の身近な支えにすることです。そして、微々たる力ですが、将来、中国に帰って、学者または裁判官になり、人間味のある民事訴訟制度、人間味のある社会を構築し、進んで心豊かな国民の自発的な思いにより、東アジアの真の平和が実現できるよう、力を尽くしたいと思っています。



修了生  
趙 賢雅 (韓国)  
Jo, Hyeon A  
立命館大学大学院  
言語教育情報研究科修了

私は2009年4月から2年間、青少年学習者のための日本語教材開発研究に取り組んでき

ました。特に韓国の青少年学習者を対象に、青少年のコミュニケーションにふさわしいポライトネス・ストラテジーを身につけながら実用的な日本語を学べる方法を探ってきました。今年の4月からは京都国際中・高校という韓国系の学校で韓国人の生徒だけではなく、在日韓国人や日本人の生徒を対象に韓国語を教えています。ここは日々国際交流が行われている教育現場でもあります。そのため、工夫が必要な研究課題もどんどん出てきていますが、新しい研究課題に取り組みながら生徒達と楽しく学校生活を送りたいと思います。



修了生  
尹 一喜 (韓国)  
Yoon, Il Hee  
東洋大学大学院  
福祉社会デザイン研究科修了

私は、「家族介護も担っている介護職」に関する研究をしました。二重に介護を行う人たちの特性として、職業として介護を行う人だからこそ得られる「優位性」と「困難性」を明らかにしました。特に印象的だった点は、インタビューをした対象者全員が「困難な面はあるもののまわりで支えてくれる家族がいるから乗り越えている」と話していたことです。これは、家族の存在だけでも力になるということが明らかになった一面でもありました。誰でも「家族」という言葉を思い浮かべると胸がいっぱいになると思います。特に、他国で生活をする外国人にとっては胸にじんときる言葉ではないかと思います。私の留学生活も楽しいことだけではなく、一人で心細くて諦めなくなった時もありましたが、母国にいる家族をはじめ「かめのり」ファミリーの支えがあったからこそここまで来ることができたと思います。2年間本当にありがとうございました。これからは「かめのり」の修了生という誇りをもって頑張ります。



## かめのりコミュニティの仲間からのお便り

アジアで貴重な異文化体験をしたかめのりコミュニティの仲間たちは今、それぞれの夢に向け歩んでいます。みなさんから届いたお便りを紹介します。



福伊 永花  
2008年  
マレーシアへ長期留学

私は今年の四月より東京大学文科I類で学んでいます。私がこの進路を選択したのは「ここなら自分の可能性を思う存分試すことができる」と考えたからです。留学を通し様々なことに挑戦して初めて、自分が成長できるチャンスをつかめると実感したので、ぜひ進学したいと考えました。大学に入学した今でも、留学で得たこの「挑み続ける気持ち」は大学生活の中で学習、部活動、ボランティアなど新しいことへの挑戦の私の原動力となっています。



武藤 広夏  
2009年  
中国へ短期留学

4月から大学生となり東京理科大学建築学科で学んでいます。中国に短期留学した理由のひとつに、斬新な建築を見たいという強い気持ちがありました。将来は中国で建築設計事務所を開き、より明るく楽しい国になる建築に携わりたいです。今でも、每晚広場で大人も子どももみんな集まって踊っていた中国の人々のことをよく思い出します。この貴重な体験をかみしめ、夢を胸に抱き大学生活を充実させます。



根岸 諒多  
2010年  
第1回中学生交流プログラム  
(中国)参加

プログラムに参加して今でも思うのは、この経験は自分にとって始まりであったのだということです。積極性がなかった僕が交流プログラムに参加することには、かなりの恐怖感がありました。しかし、帰国後、「僕はこれをやりきったのだ」という今までで一番大きな達成感が生まれました。これ以降、僕は何をやる時でも自信がつかまりました。中国、日本両国のたくさんの人とふれあい、言葉が分からなくても心を通わせることができたと思うと何も怖くなくなりました。自分の成長を感じることのできた、一生忘れることのない最高のプログラムであったと思います。



光永 隆人  
2008年  
タイへ長期留学

4月から故郷の広島を離れ、兵庫県にある大学の国際学部へ進学しました。留学中にも自分自身を高めることができましたが、帰国後に身についた自信や精神力は今後の人生の大きな糧になると思います。また、ボランティア活動で海外から来日する留学生の相談スタッフとしても自分の経験をフルに活用して頑張ります。



細沼 綾乃  
2009年  
中国へ短期留学

派遣からもうすぐ2年が経とうとしています。けれどあの体験は私の原体験として今も色褪せることはなく、鮮やかさを増すようです。中国語への興味も尽きず、この春國學院大學中国文学科へ入学しました。今は日々中国語や漢文を学んでいます。中国の現代小説研究や再度の留学など取り組みたいことは多く、これからも初心を忘れず勉学に励んでいきたいです。

大山 晏奈  
2010年 第1回中学生交流プログラム(中国)参加  
高校では英会話に力を入れています。中国で同じ中学生に英語で話しかけられた時、うまく会話ができず悔しい経験をしました。そして世界の共通語である英語の重要性に気づき、米軍基地ハウス内の英会話教室に通い始めました。プログラムへの参加は人生に大きな刺激を与えてくれ、中国に対しさらに興味を持つきっかけとなり誇りに思っています。中国の友だちとは今後も交流を深めたいです。

須藤 光香  
2009年 マレーシアへ長期留学

4月から獨協大学外国語学部の交流文化学科で学んでいます。2年前の留学で外国人と交流するのは意外と難しいと実感。もちろん言葉の壁も理由のひとつですが、宗教や生活習慣の違う人との生活は大変でした。この体験があり、「交流文化」にとっても関心を持ちました。私にとって一生の宝物となった留学をこれから高校生になる方にはぜひ挑戦してもらいたいです。

樋上 愛奈  
2009年 韓国へ短期留学  
大阪赤十字看護専門学校に進学し、過密なスケジュールで大変な毎日ですが、充実した日々を送っています。赤十字の附属学校なので、現在はボランティア活動にも力を入れています。昨年12月には韓国のホストファミリーが遊びに来てくれ、現在も交流は続いています。留学をきっかけに、海外への興味により高まり、本当にすばらしい経験ができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

斉藤 美沙季  
2010年 第1回中学生交流プログラム(中国)参加  
中学生の時、プログラムに参加して、日本と中国の歴史的關係や中国にいる同年代の友だちの生活を知ることができたことは、自分の興味をさらに深めることにつながり、また、高校で世界史と地理を選択し学びきっかけとなりました。現在は、高校2年になり、テニス部で最高学年として、できるかぎりのことをやっといこうと頑張っています。

## 高校生交換留学プログラム

### アジアへ出発

新たに3名の派遣生が、4月にタイへ、6月にはフィリピンへと旅立ちました。出発前懇談会では、「現地の人とたくさんコミュニケーションをとり、タイ語をしっかりと勉強したい」「フィリピンでは文化、食、言語など多くのことを吸収し、日本についても伝えてきたい」と抱負を話してくれました。「タイ語の通訳」や「日本とフィリピンの架け橋になり、両国の役に立ちたい」と将来の夢を語った派遣生たちは、夢に向かっての大きな一歩を踏み出し、現地でホストファミリーと生活を



派遣生懇談会にて

もにしながら、高校に通っています。なお、本年3月に来日を予定していた20名のアジアからの受入生は、震災の影響により一部は4月下旬に来日し、それぞれの受入地域で異文化体験を始めています。その他の受入生は、8月下旬に来日の予定です。

### 「5周年を迎えて」

このたび内閣府から公益財団の認定を受け、2011年4月1日より公益財団法人かめのり財団となりました。今後も、日本とアジア・オセアニア地域の青少年の交流とその懸け橋となる人材育成を通じて、友好と相互理解の推進のため、①青少年の留学への奨学支援、②青少年および教師の交流並びに言語教育支援、③かめのり賞ほか国際交流、人材育成の基盤支援の3つの柱で事業を展開します。何より、公益を目的とした事業活動を行う財団として認められ、アジアそしてグローバルに活躍する人材を輩出する組織となって

「未来をつなぐ」べく、身を引き締めて活動する所存です。また、おかげさまで本年4月11日をもって5周年を迎えることができました。記念事業として8月20日～27日には香港中文大学で7カ国・地域の大学生を招へいし、未来のアジアを考える「かめのり地球青少年サミット」を、来年1月14日に「5周年記念かめのりフォーラム」を開催する予定です。今後とも、ご指導、ご鞭撻いただきたく、お願い申し上げます。

理事・事務局長 西田 浩子

### 今後の予定

- 7月 【高校生短期】 第4期生中国へ出発
- 8月 【高校生短期】 第4期生韓国へ出発  
【高校生長期】 第5期生来日  
かめのり地球青少年サミット 中国香港にて開催
- 9月 大学院奨学生 夏の研修交流会
- 10月 第3回中学生交流プログラム（マレーシア）実施

≪ 編集後記 ≫

留学生の体験レポートに「いってらっしゃい」「お帰りなさい」という言葉は、自分の国にはないもので、家族の暖かさを感じる大好きな言葉だとありました。普段当たり前のように使っている言葉をもっと大切に思い、この言葉で見送り出迎える1日は幸せでかけがえのない1日であることも忘れてはいけないと感じた文章でした。（菊地）

発行人 / 西田 浩子  
編集 / 菊地 佐智子  
デザイン / イワブチサトシ (BUTI design)  
印刷 / 佐伯印刷株式会社

### 高校生交換留学プログラム 参加者募集

現在、「高校生交換留学プログラム」に参加する高校生および留学生のホストファミリーを募集しています。詳細については、次の実施団体へ直接お問い合わせください。（お問い合わせ時期によっては、すでに募集が終了している場合があります。）

AFS 日本協会

<http://www.afs.or.jp/>

Tel : 03-6206-1911

YFU 日本国際交流財団

<http://www.yfu.or.jp/>

Tel : 03-3404-0141

### 第3回中学生交流プログラム 参加者募集

第3回はマレーシアへ派遣します。現地中学生との交流や現地家庭への訪問、伝統文化の見学などを通じて、相互理解を深める1週間のプログラムです。詳しい募集要項および応募方法は、(社)国際フレンドシップ協会へお問い合わせください。

国際フレンドシップ協会

<http://www.ifa-japan.org/>

Tel : 03-3582-3021

### 講演会開催団体募集

法政大学教授王敏(Wang Min)理事による講演会の開催団体(高校、大学、国際交流団体など)を募集しています。日本と中国の交流の歴史などを交えながら、「異文化理解の必要性」を主なテーマとする講演です。

詳細は、かめのり財団事務局へお問い合わせください。



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-5 共立麹町ビル 103

TEL : 03-3234-1694 FAX : 03-3234-1603

E-mail : [info@kamenori.jp](mailto:info@kamenori.jp) URL : <http://www.kamenori.jp/>